

八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)に対する関係住民の意見

1 想定内であったこと

「八ッ場ダムがベスト」という結論は（おかしな結論であるが）想定内。

八ッ場ダム中止になると予算、天下り先が減ってしまう「利害関係者」である国交省の検討した「素案」である以上、八ッ場ダムがベストという結論になっても不思議ではない。

2 想定外であったこと

「河川整備計画相当の目標流量17000m³/秒」



河川整備計画に関する意見に対する平成19年の国交省回答

「利根川水系の河川整備計画については、現在、検討中であるため、現時点ではお示しすることができません。今後、河川整備計画のたたき台を公表するに際しては、わかりやすい説明に努めます。」

「たたき台」は、いつ公表されたのか？「わかりやすい説明」はいつされたのか？

法律の定めた手続の中でした約束を反故にするような判断は、撤回していただきたい。

3 河川整備計画策定手続において、淀川流域委員会のような議論の場が設けられれば、こうなる


- ・ 最近60年間で、洪水ピーク流量が10000m³/秒に満たない状況で、今後20～30年の目標流量を17000m³/秒と定めることはありえない
- ・ 堤防の状態が明らかにされる
（さん指摘の通り、危険な箇所が多数ある。10000m³/秒に満たない洪水で堤防の水漏れが起きている。その対策として八ッ場ダムが必要という上田埼玉県知事の頭の中は？）
- ・ 実際の洪水ないし水害に対する八ッ場ダムの効果が明らかになる
（カスリーン台風にも効果のない八ッ場ダム。98年9月洪水では、堤防のはるか下で、13センチメートル水位を下げて、何の意味があるのか？の指摘は的外れ。）
- ・ 工事を凍結せず残事業費で代替案との比較を行うデタラメは通用しない
（産経新聞のアンケートでは、4600億円の事業費に対する効果をきいている。これが当然。）
- ・ 洪水被害を水増しするデタラメマニュアル（治水経済調査マニュアル）は使わない
（想定被害額は、実際の被害額の30倍以上。まともに堤防を整備している河川であれば、数十年に一度の規模の洪水で、同時多発決壊は起きないはず。）
- ・ 外れ続きの水需要予測は、見直しをさせる

4 報告書(素案)の修正されるべき方向

関係住民の意見をまともに聞けば、「八ッ場ダムがベスト」の結論は維持できないはず。

5 有識者会議での公開・公正な議論を

記者クラブマスコミだけをいれ、議事録に発言者名すら載せないようなコソコソとした会議で「八ッ場ダム事業継続」の結論を出しても通用しない。

さんを委員に加え、完全公開・インターネット中継で堂々と議論していただきたい。

受付 番号	年代	性別	住所		意見及び質問	回答
			都・県	市区町村		
47	60代	男性	埼玉県	三郷市	<p>1 河川整備計画の目標流量が科学的に見て妥当であるかどうかを明らかにすること 利根川の河川整備計画は目標治水安全度を本川1/50、支川1/30として策定することになっているが、その安全度に対応する目標流量が科学的に見て妥当な値であるかどうか非常に重要である。それは、この目標流量が過大に設定されているために本来は不要な河川施設が河川整備計画に盛り込まれる可能性が高いからである。 整備計画案では、八斗島地点の洪水調節後の目標流量は13,000m³/秒となっているが、洪水調節前の目標流量は明らかにされていない。その数字と、それが1/50の値として科学的に妥当かあるかどうかを示す詳細な算出根拠を明らかにすることを求める。 なお、利根川河川整備基本方針では基本高水流量(八斗島地点)が22,000m³/秒となっているが、これは基本方針の目標安全度1/200の流量としてはきわめて過大な値であって、実際には16,000m³/秒程度であることを申し添えておく。</p> <p>2 河川整備計画に盛り込む河川施設は優先順位の高いものに絞り込むこと 河川整備計画は、河川整備基本方針で(表示はされていないが)想定されている河川施設のうち、今後30年間に実施すべき優先順位の高いものを選ぶことになっている。それは河川整備の段階的な進め方を考えれば、当然のことである。ところが、実際には長期目標としては仮に必要な施設であっても、河川整備計画の段階では必要性・緊急性のないものまでが、事業の実施が自己目的化されて、整備計画に盛り込まれるようとしている。その端的な例が3で取り上げる渡良瀬遊水池や稲戸井調節地の大規模掘削事業である。国交省の計算でもそれらが意味を持つのは1/200のような大きな洪水のときだけであって、1/50の洪水ではまったく必要性のないものであるにもかかわらず、整備計画に盛り込まれようとしている。 整備計画案で示される新たな河川施設のそれぞれが今後30年間に実施すべき優先順位の高いものであるかどうかを十分に検証するとともに、その検証結果の具体的なデータを明らかにすることを求める。</p>	<p>利根川水系の河川整備計画については、現在、検討中であるため、現時点ではお示しすることができません。今後、河川整備計画のたたき台を公表するに際しては、わかりやすい説明に努めます。</p>